

令和3年度の終わりを迎えて

昨日(3/24)に12名の6年生が日吉小学校を巣立っていきました。卒業式に対する整った構え、卒業証書授与時の堂々とした姿、『お別れの言葉』での全員の心のこもった呼びかけ、そして、在校生の努力の跡がわかる『贈る言葉(VTR)』と、誰もが自分の役割をしっかりと果たしたことで、感動的な卒業式となりました。

来賓として出席された鈴木教育委員さんも子どもたちの誠実さ、直向きさを感じ取られ、「素晴らしい卒業式だった。」というお言葉を頂きました。

大規模校だから伝わる勢いや迫力があります。逆に小規模校だから伝わるきめ細やかさ、誠実さがあります。

今年度は日吉小学校らしさが溢れた卒業式だったと思います。

明けて本日(3/25)、登校の様子を見ていましたが、6年生の抜けた登校風景は何か寂しいものがありました。12名という数でありながら、その存在感が大きかったからでしょうか。

しかし、その寂しさを払拭する姿が修了式の中で見られました。

1学期から終業式の中で、「自分が頑張ったこと」「成長できたこと」について、学級1名に限って発表する場面を設けました。コロナ禍であり、委員会活動も思うようにできず、クラス発表は別として、学級の一人だけが全校の前で話す機会はなかなかないため、敢えて位置付けてきました。

本日の修了式では、各クラス9割程が挙手をし、担任の先生に指名された6人が前に出て、一列に並び、1年生から順に発表していきました。

「自分が頑張ったことがある」というレベルから「自分が頑張ったことを発表できる」というレベルにアップしたことが、とても嬉しいことでした。

全員が実に堂々と、自分の頑張ったことを伝えたいという想いに溢れた発表で感激しました。

自分の考えを自分の言葉で語ること、原稿なしで、頭の中で自分の話したいことを整理しながら話すことは、とてもハードルが高いことです。

しかし、「自分が頑張ったこと」を全校の前で話すことで、その頑張りが確かなもの・誇らしいものになったのではないかと思います。

すぐに全校の前で話すことは難しい面もあるかもしれません。だからこそ、学級内で自分の考えをもち、堂々と発表できるようにすることです。

令和4年度、自分の考えを大切にして、挙手発言につなげるとともに、仲間の意見から多くを学べるようになることを期待しています。